

祝福された家族の逸話（前半）：預言者ザカリア

説明：

預言者ザカリアは、イエスの母マリアの保護者であり、ヨハネの父でした。また彼はイエスと同時代に生きた預言者でした。

より [アーイシャ ステイスィー](#)

掲載日時 30 Jul 2012 - 編集日時 05 Aug 2012

カテゴリ：[記事](#) > [イスラームの信条](#) > [諸預言者の物語](#)



これは、神を愛し、畏れたザカリアという名の老人の逸話です。彼は神のご満悦を得るためだけに知識を得て、それを教えることに人生を費やしました。クルアーンは彼について、第3章と19章の中で、キリスト教のルカの福音書に似た逸話を伝えています¹

。ここでは、この祝福された男性について、クルアーンがどのような記述をしているのかについて見ていきます。なぜなら、ムスリムのクルアーンに対する信念は、啓示された当時から変わりませんが、それ以前の啓示は紛失、改変、歪曲を被ったからです。

“（これは）あなたの主が、しもべのザカリーヤに御慈悲を与えたことの記述である。かれが密かに請願して、主に祈った時を思え。かれは言った。
「主よ、わたしの骨は本当に弱まり、また頭の髪は灰色に輝きます。だが主よ、わたしはあなたに御祈りして、御恵みを与えられないことはありません。
”（クルアーン19：1-4）

預言者ザカリアは、預言者イエスと彼の母マリアと同じイムラン家の一員でした。若きマリアがエルサレムの崇拝の場へ向かったとき、神はその英知と恩寵によってザカリアを彼女の保護者として任命しました。彼は毎日マリアのもとを訪れ、彼女の必要を満たしていました。マリアによる神への奉仕はザカリアを感嘆させ、また彼は彼女の場にもたらされていた食糧を見つけて驚きました。そこには、夏には冬の果物、冬には夏の果物があつたからです²

。マリアがいかにしてそれらの食糧を手に入れたのかをザカリアが尋ねると、彼女は真の供給者である神がそれをお恵みになったと答えました。マリアはこう言ったのです。

“「これはアッラーの御許から（与えられました）。」本当にアッラーは御自分の御心に適う者に限りなく与えられる。”（クルアーン3：37）

マリアによる神への完全なる帰依と信仰をザカリアが見出したとき、それは新たなる概念へと彼の目を開かせました³。それは私たちの必要性がいかに圧倒的であつたり、取るに足りないものであれ、神は常に

お聞きになり、お答えになるということです。このことは熟考に値する、非常に重要な概念でした。神は誠実なしもべに対し、限りなくお与えになるのです。マリアは季節外れの果物を享受し、ザカリアは、彼自身と彼の妻が子を宿す年齢をとうに過ぎているにも関わらず、人間的基準としては不可能なことを祈願しました。神の恩寵はいかなる制限にもとらわれないものであり、可能性は限りなく存在するのです。ザカリアはそのことを、彼の被後見人であるマリアから学びました。

ザカリアは一人、主に呼びかけ、自らが老齢に達し、髪は白髪となり、妻も老齢で不妊であっても、神のご満悦を得るような跡継ぎを望んだのです。ザカリアは彼の後を継ぐことの出来る息子を欲しましたが、貧しいながらも富は望みませんでした。彼は預言者の血筋を継承する息子が、彼が人生を通して習得した知識を伝え広めることを望みました。神は直ちにそれに応え、こう告げたのです。

“それからかれがなお聖所で礼拝に立っていた時、天使がかれに呼びかけた。「アッラーからヤヒヤー（ヨハネ）の吉報をあなたに授ける。その子はアッラーの御言葉の実証者となり、尊貴、純潔で正しい人々の中の預言者となる。」”（クルアーン3：39）

このクルアーンの節における「神の御言葉」には特別な意味が含まれています。すなわちそれはイエスのことであり、なぜなら彼は神による「在れ」という言葉によって創造されたからです。ザカリアの息子ヨハネは、イエスの教えを信じ、従った者たちの一人でした。

ザカリアがこの驚くべき知らせを受け取ったとき、彼は礼拝に立っていたところでした。彼の年齢と妻が不妊であることを考慮しても、如何にそれが可能であろうか、というのが彼の反応でした。神はマリアが学んだ教訓を立証したのです。

“このように、アッラーは御望みのことを行われる。”（クルアーン3：40）

それがいかに彼と彼の妻に起こり得るかを不思議に思ったザカリアは、御徴を求めました。神はそれに対し、彼が身振り手振りすること以外に会話をする能力を失うことを告げました。ザカリアは神への称賛と唱念に時間を費やすことを指示され、崇拜の場から離れると、話すことが出来なくなっていました。

クルアーンは、預言者ザカリアと彼の妻が善行をし、恐れと希望、そして謙虚さをもって神へと呼びかけたため、神は彼らの老齢にも関わらず子供という報奨を与えたことを述べています。

“それでわれはこれに応え、かれにヤヒヤー（ヨハネ）を授け、また妻をかれに相応しくした。かれらは互いに競って善行に勤しみ、また希望と恐れをもって、われに祈っていた。われに対し（常に）謙虚であった。”（クルアーン21：90）

彼は普通の子ではありませんでした。ヨハネは幼少時から英知を授けられ、神によってトラーに忠実であるよう命じられています。彼は思いやりのある人物で、人々に対し同情や慈悲の心を示すことが出来ました。神はヨハネを誠実な者とし、罪のない者としたのです。

“「ヤヒヤーよ、啓典をしっかりと守れ。」（と命令が下った）。そしてわれは、幼少（の時）かれに英知を授け、またわが許から慈愛と清純な心を授けた。”（クルアーン19：12）

老夫妻による切実な祈願が神によって受け入れられたことにより、それは全人類への価値ある教訓となりました。それは、神の恩寵は無限だということであり、かれこそが供給し、扶養する、唯一なる御方であるということなのです。

Endnotes:

- 1 ルカ1：5－80
- 2 イブン カシール著書「諸預言者の物語」より。
- 3 イブン カシール

この記事のウェブアドレス：

<http://www.islamreligion.com/jp/articles/1472>

Copyright © 2006-2011 www.IslamReligion.com. All rights reserved.